22. ECG gated first pass study による RVEF の測定（平衡時法との比較）

宮崎　吉春　井上　寿　塩崎　潤
（能登総合病院・RI）
藤岡　正彦　村田　義治　若狭　豊
伊東　哲郎　村本　信吾　（同・内）
油野　民雄　（金大・核）

従来の RVEF 測定法 (first pass 法，平衡時法) には，いくつかの問題点がある．その問題点を解決するため，今回 gated first Pass 法で RVEF を測定し，従来の方法と比較検討したところ次の結論を得た．

(1) 収集カウントの増加と Background の低減 (収集カウントは平衡時法の約 1/10 ではあるが，従来の first pass 法の約10倍であった．Background は，平衡時法では収集カウントの約 1/2 であったが，本法では約 1/10 であった)．

(2) 右室，右房の分離が容易，かつ，拡張期，収縮期ごとに ROI を設定できる (平衡時法は，右室，右房が重なる．従来の first pass 法は右室，右房の分離は容易であるが，右室収縮時，ROI 内に右房の重なる場合がある)．

(3) 再現性は良好である．

(4) 本法と従来の方法による RVEF 値には相関がみられたが，平均して本法による RVEF 値は従来の方法による RVEF 値より，高い値を示した．

以上，本法により，従来の RVEF 測定法より，より信頼性の高い RVEF の測定が可能となった．

23. 肝 RI アンギオ蓄積像の検討（続報）

小林　真　東　光太郎　上村　吉郎
西木　哲也　中川　哲也　浜田　重雄
西木　雅裕　山本　達　興村　哲郎
宮村　利雄　（金医大・放）

びまん性肝疾患における肝 RI アンギオ蓄積像の有用性を検討した．方法は前回述べたので省略する．蓄積像の判定基準は視覚的に肝最高濃度部と右下肺濃度の比較により，肝＞肺，肝＝肺，肝＜肺の 3 型に分類した．疾病分類は NP: 正常，DHI: 肝機能異常，L-C: 肝硬変の 3 群に分類した．対象は昭和56年，57年施行例全てとしたが，蓄積優採用基準に合致したものは 1,512 例中 595 例 (39%) であった．蓄積像の判定結果は肝＞肺; 69%, 肝＝肺; 21%, 肝＜肺; 10% であった．疾病内訳は NP: 35%, DHI: 51%, L-C: 14% であった．結果は肝＞肺で NP 群 33%, DHI 群 34%, L-C 群 1%, 肝＝肺で NP 群 2%, DHI 群 15%, L-C 群 5%, 肝＜肺で NP 群 0%, DHI 群 2%, L-C 群 8% であった．肝機能異常群 (DHI＋L-C) の検出において肝≦肺を異常とした場合 Sensitivity, Specificity Positive predictive value, Negative predictive value, Accuracy は 0.44, 0.69, 0.95, 0.48 0.63, 肝＜肺を異常とした場合ではおのおの，0.15, 1.00, 0.39, 0.45 であった．次に L-C の検出において肝≦肺を異常とした場合にはおのおの，0.90, 0.79, 0.40, 0.98, 0.80 であり，肝＜肺を異常とした場合 0.55, 0.97, 0.78, 0.93, 0.92 であった．以上肝 RI アンギオ蓄積像はびまん性肝疾患の病態につき有用な情勢を与えるものと思われる．

24. SPECT による肝内 SOL 検出の問題点 (conventional scan と比較して)

油野　民雄　多田　明　中嶋　憲一
松田　博史　道岸　隆敏　分校　久志
利波　紀久　久田　欣一　（金大・核）
前田　敏男　（映寿会）

肝 SPECT と conventional 肝スキャンを同時施行したなかから，確定診断がなされた 83 症例 (肝内 SOL 27 例含む) を対象として，肝内 SOL 検出における SPECT と，conventional scan およびその併用の比較検討を行い，SPECT 法単独による肝内 SOL 検出の問題点を臨床的に検討した．

確定診断がなされた83症例の読図は，核医学専従医 4 人 (経験 5 年以上) により行われたが，まず SPECT 像より，次いで 4～5 週後に conventional scan 像より，さらに両イメージ像より，肝内 SOL の有無を ROC 解析にて評価した．

今回の結果では，SPECT と conventional scan の併用が最も良好な結果を示したが，SPECT と conventional scan 単独では，SPECT が sensitivity, specificity ともに良好な成績を示した．しかしながら，表在性小病変では，conventional scan が良好な成績を示した．したがって，肝 SPECT は，肝内 SOL の検出に関し，単独で施行すべきものでなく，あくまでも conventional scan と併用

Presented by Medical*Online